

# 令和4年度実施「四万十川流域住民意識調査」結果の概要

## 1 調査目的

「高知県四万十川の保全及び流域の振興に関する基本条例」の目的の達成状況を把握し、進行管理を行うことを目的とする。

## 2 調査内容

対象者：四万十川流域5市町18歳以上の者 1,000人を抽出（層化抽出法）

調査期間：令和4年10月5日～令和5年1月25日 回収率：48.4%（前回調査：47.4%）

## 1 全体総括

### ○「暮らしの中で身近に四万十川と関わり、居住地域に愛着を持って生活している流域住民の姿」

- ・ 回答者の半数以上が川に出かける
- ・ 8割を超える回答者が地域に住み続けたいと思っている。  
(生活の満足度は前回調査とほぼ横ばい)



一方、環境を守る行動や意欲は減少  
生活の満足度は【仕事】【交通や防災】を  
中心に満足度が低い傾向が続く

#### 【主な項目の推移】

	H29	R4
○ 川との関わり	47.9%	55.7%
○ 居住意思	86.8%	87.3%
○ 生活の満足度	68.6%	67.9%

#### 【主な項目の推移】

	H29	R4
○ 環境を守る行動や意欲	65.2%	62.5%
○ 生活の満足度		
・ 失業の不安	16.8%	16.3%
・ 地位や収入	8.0%	6.5%
・ 通勤・通学・通院	20.9%	19.7%
・ 公共交通機関	16.0%	11.4%
(20代以下の満足度は通勤等を除き0%)		

環境を守る行動や意欲は前回調査から減少  
生活の満足度の個別項目では、以下の項目が低い傾向（特に若年層）

- ・ 収入や雇用といった仕事面
- ・ 通勤・通学・通院の快適性
- ・ 公共交通機関の利便性

### ○「河川環境の変化」について、悪くなったと感じている

四万十川の環境や景観等の変化：どちらともいえないが多数を占めるものの

- ・ 水量・清流：悪くなったと感じる割合が多い
- ・ 水生動植物の生息・生育：悪くなったと感じる割合が多い  
(季節ごとの優れた景観は良くなったと感じる割合が多い)

主な項目	良くなった	どちらともいえない	悪くなった
水量・水質	15.0%	41.9%	43.1%
水生動植物	11.2%	45.6%	43.2%
優れた景観	31.1%	53.5%	15.4%

## 2 求められる取組の内容

- ・ 文化的な景観や自然環境の保全活動の強化、情報発信
- ・ 環境学習の推進、情報発信
- ・ 公共事業での生態系・景観保全への配慮

約9割が  
必要と回答

- ・ 文化的景観の保全と活用、環境保全活動への多様な主体の参加促進
- ・ 景観・環境の変化に対するモニタリングと情報発信の強化
- ・ 更なる環境学習の拡充
- ・ 「沈下橋保全方針」「環境配慮指針」の周知徹底・遵守